

特集「栄養治療の新時代：多領域における課題と展望」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院医学研究科
内分泌・代謝内科学

福 井 道 明



人生 100 年時代を迎え社会が多様化する中で、誰一人取り残さずより実効性のある取組を進めていくことが必要である。このため、健康日本 21 では、健康に対する関心が薄い人も、無理なく健康づくりに関われるよう環境面を整えることが重要である旨を明示している。こうした方針を踏まえ、栄養施策としては食環境づくりを始め、多様な主体を巻き込んだ取組を推進している。栄養は人が生涯を通じてよく生きるための基盤であり活力ある持続可能な社会を実現する上で必須要素となる。

重症疾患患者にとって栄養は非常に重要である。栄養管理は、疾患の治療や予後、生活の質の向上に大きく影響する。栄養状態を良好に保つことで、疾患の治療を早め、合併症の予防や治療にもつながる。適切な栄養管理は免疫力を維持し、感染症を予防し、創傷治癒を促進する。また重症疾患患者の栄養管理は、専門的な知識と経験が必要である。医師や栄養士などの専門家と連携し、適切な栄養管理計画を立てることが大切である。患者の状態や、疾患の種類によって、適切な栄養管理は異なる。一人ひとりの患者に合った栄養管理計画を立てることが重要である。また疾患の進行や重症度を考慮し、早期から栄養管理を開始することが望ましい。

近年、医療の多くの分野で「栄養治療」の意義が再認識されつつある。特に栄養不良が予後に影響する高齢者医療、慢性疾患管理、術後回復、集中治療、リハビリテーションなど多岐にわたる領域で栄養療法は単なる補助的手段ではなく、主要な治療戦略の一つとして位置づけられている。外科領域においては術前・術後管理の一環としての栄養介入が、合併症の予防や回

復促進に寄与することが明らかになってきた。とりわけ重度の栄養障害を有するがん患者では、治療開始を 1~2 週間延期して栄養療法を優先することが国際的にも推奨されている。内科領域においては慢性疾患とサルコペニア・フレイルの併存に対応した栄養評価と介入が求められ、個別化された栄養ケアによって生活の質や生命予後の改善が示されている。また集中治療領域では、代謝状態に応じたタイムリーな栄養投与が重視されており、エネルギー過剰投与を避けつつ十分なタンパク質を供給する実践的アプローチが最新ガイドラインにおいて提示されている。嚥下障害に関しても単なる経口摂取の可否だけでなく、機能回復を目指した多職種による継続的支援が不可欠である。老年医学領域では低栄養および脱水の予防が重視され、栄養及び水分の包括的ケアが高齢者の自立支援と生活の質の維持において重要視されている。これらの臨床領域において共通して注目されるのは「個別化」「科学的根拠」「多職種連携」の重要性である。栄養治療が真に患者にとって有用となるためには各専門職が連携し、「病態に応じた適切な評価」と「実行可能な介入」を実現することが求められる。そのためには、専門職の教育、診療体制の整備、研究活動の活性化が今後ますます重要となる。

本特集「栄養治療の新時代：多領域における課題と展望」では、外科、内科、集中治療、嚥下といった異なる診療領域における最新の知見と実践を俯瞰し、今後の医療における栄養治療の可能性を探るものである。本特集が、読者各位の臨床における実践と、今後の発展に資する一助となれば幸いである。